

酒造会社の経営基盤強化支援

住所	宮城県大崎市古川柏崎字境田15	資本金	1,500万円
代表者	岩崎 隆聡	従業員数	5名
創業年	大正7年	売上高	—
業種	清酒の製造・卸売業		
TEL	0229-26-2037	URL	http://miyakanbai.com/

事業概要(被災前)

- ・大正7年に、米どころ宮城県大崎市で創業。
- ・太平洋戦争で一時中断したものの、昭和31年に寒梅酒造として再開。
- ・酒蔵の前には、田んぼが広がり、経営者一家総出で「美山錦」「愛国」「ひより」を栽培。自らの手で米を育てるからこそ米の特徴がわかり、おいしい酒造りに活きる。
- ・全国新酒鑑評会金賞受賞の常連。



被災概要

- ・震災により酒蔵の心臓ともいえる醸造蔵(仕込蔵・酒母室・分析室・釜場等)が倒壊し(地盤沈下、液状化等による全壊)、清酒(新酒/古酒)は約2,500本が破損(右の写真)。
- ・国道からの酒蔵までのアクセス道路は2 kmに渡り陥没し、新蔵建設のための重機搬入が一時不可能となる。
- ・商品出荷が平成23年10月から平成24年末まで完全停止。



復興に向けた状況や課題

- ・倒壊した旧蔵の解体と新蔵の建設(復旧資金の確保)。
- ・売上高が上がっても利益の出ない経営体質の改善。
- ・製造設備の老朽化によるリードタイムの長期化と商品の品質低下(設備投資資金の確保)。
- ・新たな需要の掘り起こし。



支援テーマと内容

1. 施設、設備の復旧のため支援
グループ補助金の申請支援、事業計画策定支援、つなぎ資金と自己資金の調達支援を実施する。
2. 経営体質の改善のため、販売・チャネル戦略再構築の支援
商品別の粗利益の把握を指導するとともに、当社商品のブランド構築のための販売・チャネル戦略の再構築支援を実施する。
3. 製造工程効率化の支援
ボトルネックを見極めて適切な工程集約や設備投資を可能とする資金調達(ものづくり補助金の申請)支援を実施する
4. 新たな需要を掘り起こすため、新商品の開発・販売に向けての支援
試作品開発やそのための設備導入を可能とする資金調達(ものづくり補助金の申請)支援を実施する

支援の成果

1. グループ補助金の採択を受けた。策定した事業計画を元につなぎ資金(被災中小企業者向け融資)、自己資金(高度化融資)の調達も完了。工場は完全復旧。
2. 商品別粗利益を把握して今後販売すべき商品を取捨選択。ブランド化を推進するためにチャネルを再構築(取扱い店舗を当社商品を支持してくれ、かつ、商品の特色や思いをお客様に伝えていただける酒販店のみに絞り込む)。
3. 平成25年の「ものづくり補助金」の採択により、新商品「ゆず酒」の試作品開発が完了し販売を開始。
4. 平成26年の「ものづくり補助金」の採択により、瓶詰機とラベル貼り機が導入され、生産効率が大幅に改善。
5. 平成27年の「ものづくり補助金」の採択により、全量自社産物を使用したスパークリング清酒を試作、開発。



ものづくり補助金で導入したラベル貼り機



建設中(当時)の新蔵



新商品のゆず酒

支援の成果

- ・震災前から取引のある販売網(酒販店)を復活させ宮城県内のみならず9道府県に展開。冬期醸造のみでは製造が間に合わないため、冷房設備を完備した酒蔵にて、ほぼ年間を通して(4月、5月、8月を除く)でフル稼働して対応。
- ・震災時、売上は前年度比2/3まで落ち込む。その後は順調に回復し、平成26年9月期は震災前対比25%増を達成。
- ・平成27年度の売上目標は前年度比33%増。



復旧した製造現場



冷蔵設備が完備された保管庫

今後の事業展開

1. 新商品「ゆず酒」のブランド構築
リピーター率は非常に高いものの、認知不足が原因で販売量は年間200~300本に留まる。リキュール系日本酒市場にブランド構築するべく、各種大会、コンテスト等に積極的に出展。
2. スパークリング清酒の試作、開発
クーリングロールを導入し、細やかな温度管理を実現。品質を向上させスパークリング清酒を開発。日本酒に馴染みのなかった若年層、女性の需要を喚起する。
3. 酒米の確保
昨今の減反政策の影響で契約農家から日本酒の原料である十分な酒米を買い付けることが次第に困難になると予想。将来にわたって十分な酒米を確保するため、全体の約2割に留まっている自主生産米の割合を高めるよう、農業部門を強化。

自主生産米
「ひよりの稲作
岩崎社長



事業者からのコメント

これから取り組むべきことと、その取り組み方について、迅速かつ的確にアドバイスしてもらい大変感謝しています。今後ともご指導のほどよろしくお祈りします。

また、様々な悩みを抱えている知り合いの事業者にも紹介し、この制度を広めていきたいと思っております。



最近の寒梅酒造



岩崎社長(右)と常務夫妻(左)

震災復興支援アドバイザーからのコメント

震災により甚大な被害を受けましたが、これを「ピンチ」として受け止めるのではなく、「チャンス」と捉えたら何が出来るのか?との目線を共有し、一緒に考え抜くご支援を行っています。例えば、製造再開直後の生産量・出荷体制等の制限を逆手に取り、当社商品に惚れ込み、思いを伝えて頂ける「仲間」とも呼ぶべき酒販店との取引へ絞り込んだ事で発信力が強化され、当社商品のファンが増えてきました。

また、震災後の新たな繋がりから生み出された、市場では通年提供が非常に少ない「ゆず酒」の新商品開発、製造工程見直しを踏まえた「効率化」と「品質向上」を同時に実現する設備導入等、補助金を活用しながら一歩一歩力強く前進しています。

内部管理体制・製造体制強化等多くの課題も抱えていますが、日本文化とも言うべき日本酒の素晴らしさを伝え続ける「底力のある企業」を目指して、共に頑張りましょう!



震災復興支援アドバイザー
中小企業診断士 植松 正人